

## 【5】環境学習・環境行動

生活環境保全、自然・都市共生、資源循環、地球温暖化対策という施策の柱を押し進めるには、市民一人ひとりが意識し、行動することが必要です。

土台である「環境学習・環境行動」では、4つの柱の礎となる環境意識を高めるため、市民・事業者・行政が環境問題の現状や、取組みの方法を知り、効果などをお互いに伝え、主体的にまたは協働で行動している状態を理想とします。

「生活環境保全」、「自然・都市共生」、「資源循環」、「地球温暖化対策」の4つの柱の施策におけるそれぞれの取組みは、下記の施策が伴っていることが重要です。

### (1) 施策

#### ① 情報を発信する・収集する



現在、新たなメディアが次々に登場しており、従来の紙媒体では入手困難だった情報に、容易に接することができるようになりました。同時に、あらゆる人がインターネットを通じて情報を発信できるようになりました。このように、様々なメディアを利用して、各主体が環境情報の収集と効果的な提供を行い、相互に啓発し合います。

#### ② 学ぶ・体験する



各主体が、それぞれの立場から、得意とする分野において、その知識を共有し、活動のすそ野を広めていくことが有効です。例えば事業者では、一般には知られていない取組みを、広く周知することで社会に貢献できることがあります。相互に教えあい、理解を深めながら環境意識を高めていきます。

#### ③ 行動する



各主体が、あらゆる手段で環境行動に関わり、環境負荷の軽減に貢献していきます。さらに、新型コロナウイルス感染症対策を発端とした「新しい生活様式」の実践が求められていることから、感染症対策を踏まえた環境行動に取り組んでいく必要があります。

